

(2) 中・長期的な財政計画と総合将来計画（もしくは中・長期の教育研究計画）との
関連性、適切性

現状の説明

法人全体については、中・長期的な将来計画があるが、大学独自の中・長期的な財政計画や総合将来計画はない。

点検・評価

長所と問題点

法人全体の計画と整合した、大学独自の中・長期的な財政計画や総合将来計画を策定する必要がある。また、法人全体の中・長期的な将来計画の策定に関しても、積極的に関与していくことも望まれる。とくに、18歳人口の減少に対する大学としての戦略に関する検討も不十分であり、早急に運営委員会等での検討に着手することが必要である。

2 外部資金等

(1) 文部科学省科学研究費、外部資金（寄附金、受託研究費、共同研究費など）の受け入れ状況と件数・額の適切性

現状の説明

科学研究費の受入状況は、大学基礎データ「V 研究活動と研究体制の整備」「9 科学研究費の採択状況」に、外部からの資金の受付状況は、大学基礎データ「V 研究活動と研究体制の整備」「10 学外からの研究費の総額と一人当たりの額」に示す。

長所と問題点

科学研究費の申請件数、採択件数ともに少なく、教員の自覚を強く求める必要がある。

将来の改善・改革に向けた方策

外部研究費を受け入れ易いシステムを構築する必要がある。本学では、研究費の受入れ及び支払の適切性をチェックするための事務システムはあるが、それ自体を支援する仕組みがないため早急な改革が求められている。

3 予算の配分と執行

(1) 予算配分と執行のプロセスの明確性、透明性、適切性

(2) 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの導入状況

現状の説明

大学事務局で作成された予算案は運営委員会に報告される。運営委員会です承された予算案は法人本部へ提出され、法人との折衝の後、法人理事会、評議員会の承

認を経て決定される。この決定された予算に基づいて執行される。予算決定後の状況変化に対応するために、年1回、予算の補正を行っている。

点検・評価 長所と問題点

予算の執行が年度末に偏ること、補正予算作成のタイミングが適切でないなどの問題もあるが、平成15年度から学科予算が大幅に充実され、学生の演習支援が円滑に進むことが期待されている。

大学内での予算案作成から運営委員会での了承までの期間が短く、教務、学生部等の委員会での議論と各課作成予算案との一致度についての評価が不十分である。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は、大学内での予算案作成段階において、各種委員会、学科が積極的に関与することが必要である。

4 財政公開

(1) 財政公開の状況とその内容・方法の適切性

現状の説明

東京情報大学を含む学校法人東京農業大学の財務状況に関する情報は、学校法人会計基準に基づいて作成され公開されている。資金収支計算書、消費収支計算書等の情報は「職員広報」により学校法人東京農業大学の教職員すべてに周知されている。

点検・評価 長所と問題点

「職員広報」により報告されている資金収支計算書、消費収支計算書等の情報は、学校法人東京農業大学の全体についての情報であり、大学単独での詳細な情報は含まれていない。法人全体の中での本学の厳しい状況を学内関係者に知らせるための更なる工夫が求められる。

5 私立大学財政の財務比率

(1) 消費収支計算書関係比率及び貸借対照表関係比率における、各項目毎の比率の適切性

現状の説明

平成13年度の学校法人東京農業大学の消費収支計算書関係比率及び貸借対照表関係比率は次のとおりである。